



後
日
記

乾

5
2192
2191
1



明へ割5
號 2/92
巻 1-27



清陽を起すけりあしむらぬ
あまてらやけい神の
たてまつるるさしを
この所を風新れ
たてまつるるさしを
たてまつるるさしを

まおりに

藤野清氏遺愛之記

明治三十四年四月二十日
藤野清氏贈

月をわき破りまきつて
りよふ——のひきとあたまを
きりよふ——あ——風雅を風雅の
よき——かきここのは所の様
姿ありりりり

月をわき破る相とありる人者
む——夢を破れを麒麟を
ほてまを破る——破る——
をのつら世の人を破る——
るを破る——今も破るのつら

破け——わきに破れを破る
りよふ——あ——あまのあま
ひきりよふ——あまのあま
茶記のあまひきりよふのあま
此のあまひきりよふのあま
つらを破るからけつらと
あまひきりよふのあまひきりよふ
あまひきりよふ

賤別之地

伊勢 山田 富田 桑名

尾張 名古屋 熱田 犬山

美濃

右 丹波 長湊 上有知

岡 加治田 源田 黒野

岐阜 大垣

近江 栢系 彦根 膳所 大津

京

西条坊求日記

乾

之縁成寅之辰四月十日津の國やけ薩摩
はみそ途一てくも志々おひのふり
ふらふら箱敷れくにあまのくらすまの山
たろろめ一てきくまら水みおけしあせ
河を世つみよ山姥よハあ〜のやろ〜
ろろ〜い〜の〜き〜い〜は〜世の人七
あり〜の〜あ〜有〜る

あーの子介み路成をわらわすふかあ

とそ有るものなまありては、
てよおとくもまゝのあのかさあひの
けしきもさうり——うはるるうら
うらちりちりちり——あぬあぬ
れぬぬ一あのみかき——あふとや
み——かあれみくらや、軒十くら

六一日

とる庫の隙りとくく、
揚う古懐とアふれ

養生をふまおとけみ武にきりかり——
一子正行、掃井の春此けりけり——
たいも〜けり〜

坐置し泣きもやあり百人のき

かの後大井浦にさかきき、
あけあけりしそけりもありあけり

いふまじし、
あ——の眺るみこや

おののたききこのるより一里おりのあ

九二日

幡六国

詣人ぬ二朝

おののたききこのるより一里おりのあ

ありさのたききこのるより一里おりのあ
又十余町かりあは後さおりにけりたもえ
すのすーお風雅の地なり
おのやーおのたききこのるより一里おりのあ

おのたききこのるより一里おりのあ

おのたききこのるより一里おりのあ

九三日

姫路

11

け地はくろくえ障りまらぬ人のあてぬ
 雅のみほくさすけ ことあるはまにま
 様 庄母かろりてかろりよるおんこれ
 かくまじはらう—うら

けん寝るわあーの子分の音にあふよ

六五日

ちの風意うぬりてその又うきまをい
 閑者まらんをまをまけらるるうら
 ぼほくのまはあまのたれ笑のうら

あらう—あまのたれ 乙女つら

我神をたぬとあまの風新け

春草

風鳩かける海—おねのやうれ

竹門亭

うのうらやらまはくあまの徳

六七日

う日書あふよまらるるのちまにまらるる

いのちありてはなすの世のまじり
まじり

旅のまじり — かろやちのまじり

まじりまじりのまじり — まじりまじり
まじりまじりまじりまじりまじり
まじりまじりまじりまじりまじり
まじりまじりまじりまじりまじり
まじりまじりまじりまじりまじり
まじりまじりまじりまじりまじり
まじりまじりまじりまじりまじり
まじりまじりまじりまじりまじり
まじりまじりまじりまじりまじり
まじりまじりまじりまじりまじり

まじりまじりまじりまじりまじり
まじりまじりまじりまじりまじり
まじりまじりまじりまじりまじり
まじりまじりまじりまじりまじり
まじりまじりまじりまじりまじり
まじりまじりまじりまじりまじり
まじりまじりまじりまじりまじり
まじりまじりまじりまじりまじり
まじりまじりまじりまじりまじり
まじりまじりまじりまじりまじり

二月五日

備忘録

本日園のまじりまじりまじりまじり
まじりまじりまじりまじりまじり

他諸所アノカキ〜神ヤ陳敷多
 終々〜世母志〜社〜
 爲の〜カ〜
 あり〜
 以ふ〜陳敷〜海〜
 かくてハ〜
 山母〜
 爲の〜
 なる〜

〜ち〜の月日部〜

傳もの神〜
 あ〜
 う〜
 各〜
 下〜
 降る〜
 社家〜
 山〜

新編

山母〜

八日

佐中国

叶月二十麻田白とてさういへて念ふまゝに
野うぐいすのうぐいすさういへて念ふまゝに
ぼろやういふまゝにさういへて念ふまゝに
さういふまゝにさういへて念ふまゝに

さういふまゝにさういへて念ふまゝに

おまゝに人除凡彦とて入あつての侍を
おまゝにたてまつらふ海老のようといふ

あゝとていふまゝにさういへて念ふまゝに
侍をたてまつらふ海老のようといふ
かれとていふまゝにさういへて念ふまゝに
けつふくをさういへて念ふまゝに
てあるまゝにさういへて念ふまゝに
さういふまゝにさういへて念ふまゝに
さういふまゝにさういへて念ふまゝに
武家の風をさういへて念ふまゝに
けつふくをさういへて念ふまゝに

此を辨くしむらふ真言のうらめしき
とにきそよし座しうけとてきり

いふ

えいのろ甲斐こころゆ終るる

七返堂草

の月あか神あり — 法よふあき

しるのいふことありこのうらめしき

得持終しうけありて今うらめしき
るすのめしきや法きこのうらめしき
一そは法とてきり座しうけとてきり
ちとありて — 一そは法とてきり座し
のうらめしきありてきり座しうけと
きり — 一そは法のうらめしきとて
此は法とてきり座しうけとてきり
の風情をきり座しうけとてきり
てのうらめしきとてきり座しうけと
ふらめしきとてきり座しうけと

すりて空ろなる青梧のこころあり
あはれもしあはれにわかれあはれなき
のこころむいやまはらう又一町の

風雅うた

あふよふつにむのしよ 一山清水

十日

けりくくに備ふてあふの海へよめ
きろく々ちむしよあはれ月もろく
細しうりて海の男あはれのことぞ

いづしがかりいやるもあり也

たきとめくぬき年一浦の国程時

兼里號

兼里の里はあふのあはれちち兼
やうあまのあはれあまのあはれ
てあはれのあはれありあはれあまのあはれ
あはれあまのあはれあはれあまのあはれ

あはれあまのあはれあまのあはれ

十三日

けりしをなすとてきふはあはれくすのほと
あはれかひりし人 陰凡や路二は所と
いささかきくさるるもあはれ今宵のえれ
おちろふに時えのまよふて鐘のあはれ
えのぬれまふやまあはれはのころ

十五日

けりしをなすとてきふはあはれくすのほと
あはれかひりし人 陰凡や路二は所と
いささかきくさるるもあはれ今宵のえれ
おちろふに時えのまよふて鐘のあはれ
えのぬれまふやまあはれはのころ

けりしをなすとてきふはあはれくすのほと
あはれかひりし人 陰凡や路二は所と
いささかきくさるるもあはれ今宵のえれ
おちろふに時えのまよふて鐘のあはれ
えのぬれまふやまあはれはのころ

十六日

備後国

石福善寺

けり尾をより小舟め掉りてあき雲の糸更
 かりりまよみりつ家及のあといまきりや
 よろむらの熟たふまはしうりて江戸のくさ
 ぬく降土まれば橋は松のちからかた
 のまきもの橋はこもくわんめんの区は雨
 の風月燈角の橋ますなるそこのまのあら
 をいこくはめをわづみてをさるわん
 かしこくはめをる形あはよやうけんそ木柳
 赤壁の縁は入れたやうめさけるまきり
 陽こありあともあはつてこのまのあら

むめ幸々々々舟次のおらぬ旅のあ
 まれとてさくし酔いよらぬわんか
 楓橋のまなもさあそ夕陽のまきり
 かはれまきるの橋は松の林原めやこ
 るものまきりまきりあかりやされいあ
 ありう浮きまきり他地の浦、まは雨の
 むめあかりまきりまきりあかりまきり
 世に橋網のまきりあかりまきりこのま
 いらのまきりまきりまきりまきり
 やかのね江のまきりまきりまきり

ゆるいさし

ゆるいさしの名号といふはゆるいさし

十七日

あまのついで

このすゝまのついでに
あまのついであるはゆるいさしの
ゆるいさしのついでに
ゆるいさしのついでに
ゆるいさしのついでに

ゆるいさしのついでに
ゆるいさしのついでに
ゆるいさしのついでに
ゆるいさしのついでに
ゆるいさしのついでに

十八日

は日暮時亭あまのついでに
あまのついでに
あまのついでに
あまのついでに
あまのついでに

しつゝあはれさう
あまのしほは風のそよぐりうら

十九日

翁のよめはわらわらと市島津にまはら
あらまはぬのにおのこひあひこく林をふれ
むやうひつちたたりぬのちや二里に
ありとあしんそくにぬふのふかきこぼ
けーきさ

五歌集や白枝のうたなすむつて

今宵をうたふせりかきあはれ——侍ろり歌を
ゆよふりもちふりやまふやうりりらうら
このあしんそくにぬふのちや二里に
あまのしほは風のそよぐりうら
のちや二里にぬふのちや二里にぬふのちや二里に
ぬふのちや二里にぬふのちや二里にぬふのちや二里に
ぬふのちや二里にぬふのちや二里にぬふのちや二里に
ぬふのちや二里にぬふのちや二里にぬふのちや二里に
ぬふのちや二里にぬふのちや二里にぬふのちや二里に
ぬふのちや二里にぬふのちや二里にぬふのちや二里に
ぬふのちや二里にぬふのちや二里にぬふのちや二里に

弘法法師 聖王 移まらざる

聖王

正

御殿のまげの階にさるるが、
となくのまゝとあり 吠の付らるる

彌山

山ふかしそ 昔よとけちとせ 妙朝日くぬ

尚政亭

麻のよれ あれいさささ ちや 藤の目

廿九日

園防園

この自多國の續橋は、
けちふと 旅立ちちるに 雨とさちち
わささし 山の中らり
肩ふきさるる 山をば きては けりて

あやしみれさし ちりり

廿六日

徳心山

よおしんろりりーいあーより平のふは
 そうにそいんれーくめそれをよあを
 うーいんあー氣つまるこれよりあやき
 能治ま子とまのふくあやふろそ能治の仲
 よと好あるまーいんかりかろまーその
 るくのふ匠の格式まきとくす理まを
 やーよおあやーあそその場くま物のかな
 ーるふ情あめの能治ますけあーんあま
 みまろ徳をおあーサあー真ふ殿けれ
 あ治まーてそいんろりりーいあのふ

地ろーいんろり世の能治能治といふこれ
 鴨のほはれあかーく田子の浦のあま日
 とあわりなーんといあそれ場を志ぬ人
 ちろりーいんれを治ーいんろりあま
 まこのむいん世の中み何うたろろあ
 きこみありくあ人のきんのちろりあ
 るあ面あまをろろああそれあ
 かーいんそもあーろろいんろりあ
 横園よあまそそこれあま世の中と能
 ちろりーいんれ治の治いんろりあま

方をえやろ人さ世あ中あろ人の心あらんか
 け師歴流の身れその場とりよきえ
 幸く諺言の松くちりやとん所も遠滅ト
 され——、御侍う——とてふやらん入ま
 るやえりあ又りろあやあ對——とあまを
 むすひその場をああやらあきえらよの松きふ
 か——んあやらん——、新のうら——、あらんを
 尸とけ——、新のうら——、あらんを
 ぬ腹あらん——

休所磯園

中——うら——らん松破の田抽くれ

王松をい

よし世や王松をそよ海星のうき

正七日

ま市

け地あえら満まちけ——て後の山新きえ
 ても松よいさよ——のあ——松あをえ
 かくはひ——よきかくり人——さあれ

あうーれかうらぶさびに

あう月海にうらめ極る満朝に

次のけし中よるよめれき丸の仔細法
 とらぬよふよふそ速しけあうりらう
 ちんちんあうらうといまはやくー
 こち月れあうらうさうらあうらう
 ぶらぶらあうらうさうらあうらう
 いらにる井のありさあうらあうら
 百重のあうらうさうらあうらう



えよるのらうらうらうらうらう
 かーかうらうらうらうらうらう
 ちんちんあうらうらうらうらう
 しあうらうらうらうらうらう

物る合を極るやあの一やうら

あうらうらうらうらうらうらう
 うらうらうらうらうらうらうらう
 ちんちんあうらうらうらうらう
 さあうらうらうらうらうらうらう
 ちんちんあうらうらうらうらうらう

口あつたをうたふのこけおろしは又あけこ
 いやのくく且かこさき守武を一のあけ
 こまきうけんとりよ母あけらよてかのけ
 能清をきうて信うやをあや——しうり
 あさりくまりてそありきうあ——まよと
 かのねる合れあけ神も通——ん
 芳名のこしらぬお——り——
 の風流のうらむせしあり——ききあり
 こころのあそびをえ侍る

六八日

船木

呼坂

あかしあけあけあけあけあけあけあけあけ
 猿うまのいのあけあけあけあけあけあけあけ

化精坂

百合のさき酒み酔てやまとい坂

六九日

長門國

くやうハ下北園みつきて後校章みおる
掬干め風いりりてや那衣裳さし
とれもふらふあられ二言ハ此地東中國の
さうみりて海のあそて十人集所より
いよ壇の浦よりよとけりらる

園の灯れありさうさるり涼

三十日

けの下の園をおて小念ありけ地のご
のさちゆるるをいりさあやうい

けれい海ささいあさるんさあけ
下してけやちち新場りて燈のあ
れをこそえゆるきれこてさよりさ
はく——みろあともふま

